

## 施工14 防水・屋根工事

- 1  アスファルト防水の絶縁工法において、穴あきフーフィングの砂付き面を下向きに張り付けて施工した。
- 2  シート防水工事において、防水下地の屋根スラブとパラペットとの交差する入隅部分は、45度の傾斜で70mm程度の面をつけた。
- 3  重ね型折板の緊結ボルトの孔はドリル開孔とし、孔径はボルト径より0.5mm以上大きくならないようにした。
- 4  アスファルト防水工事における屋根保護防水密着工法においては、一般に、防水層のふくれを防止するために、平場部に脱気装置を設ける。
- 5  屋上緑化システムにおける耐根層は、一般に、防水層に植物の根が直接触れることがないようにするために、防水層の保護コンクリートの上部又は防水層直上部に設ける
- 6  シート防水工事の合成樹脂系シート接着工法において、立上り部及び平場のシートの張付けに先立ち、出隅角に非加硫ゴム系シートを増張りし、成形役物を張り付けた。
- 7  垂鉛鉄板一文字葺のこはぜの折返し幅は、15mmとした。
- 8  アスファルト防水工事において、防水層の水はけを良くするため、下地となる平場のコンクリート面を水平に打設し、防水層を施した後、保護コンクリートで1/50の勾配を確保した。
- 9  屋根露出防水密着工法によるアスファルトルーフィングの継目は縦横とも重ね幅を80mmとって張り重ねた。
- 10  改質アスファルトシート防水工事において、立上り部の防水層の末端部については、押え金物を用いて留め付け、ゴムアスファルト系シーリング材を充填した。
- 11  シート防水工事の接着工法において、一般平場部の合成高分子系ルーフィングシートについては、引張力を与えながら下地に接着させた。
- 12  縦引き型ルーフドレンについては、雨水排水管の横引き管を短くするために、パラペットの立上り部と接する位置に取り付けた。
- 13  屋根露出防水工法において、防水層立上がり末端部は、幅100mm程度の網状ルーフィングの増張りを行い、押え金物で固定し、ポリウレタン系シーリング材で末端処理を行った。
- 14  屋根のアスファルト防水工事において、アスファルトプライマーを塗布した翌日に、次の工程を施工した。
- 15  屋根のアスファルト防水層の上に施工するコンクリートには、3m内外ごとに伸縮調整目地を設けた。
- 16  アスファルト防水層の保護コンクリートの伸縮目地は、深さを保護コンクリート厚さの1/2程度とした。
- 17  塗膜防水工事において、防水層の下地の入隅については丸面に仕上げ、出隅については直角に仕上げた。
- 18  屋根スレート波板葺のスレートの重ね幅は、縦方向100mm、横方向1.5山とした。
- 19  アスファルト工事において、アスファルトの接着力の低下により、下地及びルーフィングの層間等で剥離しないように、アスファルトの施工時の温度は100℃程度とする。
- 20  シーリング工事において、やむを得ず、種類の異なるシーリング材を使用して打継ぎを行う場合、シリコン系シーリング材を先打ちし、変成シリコン系シーリング材を後打ちした。

#### 施工14 防水・屋根工事

- 1 ○ アスファルト防水の絶縁工法は、穴あきフーリングの砂付き面を下向きに張り付け、その上から溶融アスファルトを流し、穴の周辺だけが下地に密着するよう施工する。
- 2 × シート防水を行なう入隅部分は通りよく直角とし、シートを増張りした後、平坦部を張る。また、アスファルト防水を行なう入隅部分は、半径50mm程度の丸面または45度の傾斜で70mm程度の面をつける。
- 3 ○ 重ね型折板の緊結ボルトの孔はドリル開孔とし、孔径はボルト径より0.5mm以上大きくならないようにする。
- 4 × 屋根保護防水密着工法では脱気装置は使用しない。屋根露出防水絶縁工法においては脱気装置を用いる。
- 5 ○ 屋上緑化システムにおける耐根層は、一般に、防水層に植物の根が直接接触することがないようにするために、防水層の保護コンクリートの上部又は防水層直上部に設ける。
- 6 × シート防水工事の合成樹脂系シート接着工法の場合、立上がりおよび平場のシート張付けた後、出隅角および入隅角に成型役物を張付ける。
- 7 ○ 金属板一文字葺のこはぜの折り返しは、15mm程度が標準である。
- 8 × 平場の排水勾配は、原則として、下地の施工段階で確保する。下地面で勾配をとらないで水平に打設し、防水層を施した後、保護・仕上層で勾配をとることは、防水層の水はけが悪く、防水層の耐久性を損なうおそれがある。JASS 8。
- 9 × アスファルトルーフィングの継目は、縦横100mm以上重ね合わせ、水下側から水上側へ向かって重ねて行く。
- 10 ○ 改質アスファルトシート防水工事において、立上り部の防水層の末端部については、押え金物を用いて留め付け、ゴムアスファルト系シーリング材を充填する。
- 11 × ルーフィングシートの張付けは、できるだけ引張りを与えないよう、また、しわを生じないように張り付け、ローラー等で接着させる。
- 12 × ルーフドレンをパラペットの立上り部分に接近して取り付けると作業が不確実になり、不具合を起こす原因になるので、立上り部からある程度離す必要がある。
- 13 × 防水層端部の止水に用いるシーリング材は、ゴムアスファルト系を使用する。
- 14 ○ アスファルトプライマーの乾燥時間は8時間以内であるが、一般に、塗布した翌日に次の工程を施する。
- 15 ○ 屋根アスファルト防水層の伸縮調整目地は一般部は3m程度の間隔で設け、パラペットや塔屋等の際及び立上り面から0.6m以内の位置に設ける。
- 16 × 保護コンクリートの伸縮目地は、保護コンクリートの上面から下面に達するように設ける。
- 17 × 入隅については、アスファルト防水では通りよく三角形の面取りとし、塗膜防水・シート防水・改質アスファルトシート防水の場合は通りよく直角とする。出隅については、通りよく面取りとする。
- 18 × 屋根スレート波板葺の重ね幅は縦方向150mm程度、横方向1.5山とする。
- 19 × アスファルト防水工事において、アスファルトの溶融温度は、アスファルトの軟化点に170℃を加えた温度を上限とし、一般に、施工時の温度は200℃程度である。
- 20 × 異種シーリング材の打継ぎは望ましくないが、やむを得ず異種シーリング材の打継ぎが生ずる場合は、変成シリコーン系シーリング材を先打ちし、シリコーン系シーリング材を後打ちする。